

分科会評価結果

〈上記評価区分とした理由、改善内容、提案事項等〉

本事業は、ひとを豊かにする魅力あるまちづくりの実現に向け、中心市街地を訪れた方の滞留性や回遊性の向上を図ることを目的としている。

令和5年度から令和6年度にかけて、ベンチ10基を中心市街地に配置して実証実験を行ったところ、1日あたり平均55人が休憩や待ち合わせなど様々な場面でベンチの利用があった。また、ベンチの利用者へのアンケート調査では、中心市街地にベンチがたくさんあることで、中心市街地での滞在時間の向上につながると感じた方は約7割、中心市街地での目的地の増加につながると感じた方は約6割の回答であったことなどから、市民ニーズは非常に高く、事業の必要性は高いと認められる。

ベンチの設置に関して、市民からの声も好意的であることから、中心市街地の歩行空間における効果的なベンチの配置とともに、今後もさらなるにぎわい向上のための取組を検討することを求め、継続とした。